

「学びの改革 基本構想（案）」に係る若手教員等との意見交換での主な意見等について

長野県教育委員会

\* 「県教育委員会の考え方」の枠内の記載（⇒○を参照してください）は、別紙『「学びの改革 基本構想（案）」のパブリックコメント等にいただいたご意見に対する補足説明』の当該番号に、より詳しい記載があることを示しています。

主な意見等の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの授業が良くなかったので改革すると捉えられる心配がある。今までの取組を大事にし、「基本構想（案）」に書かれた状況にしていくなら賛成である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の変化により学習の内容も変化します。現状の授業の中にも、優れた要素は多くあり、そうした要素を活かしながら授業改善に取り組むことが重要だと考えています。（⇒1を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「信州学」が「探究的な学び」の核との記載は、「信州学」を必ず実施する方向となり、他校と比較され、ここまで到達しないと「信州学」ではないと競わされる心配がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「信州学」は、地域に根ざした「探究的な学び」の総称として捉えています。また、「信州学」の内容は各校独自に決めていくべきと考えており競うものではありません。（⇒2を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困と格差の中で、子供たちがいろいろな学校を選択できるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科、専門学科、総合学科のバランスへの配慮や、教育課程の工夫、さらに、「都市部存立校」と「中山間地存立校」という考え方も活かし、公教育の責務として、生徒が通学する地域に、生徒のニーズに応える学びが提供できるよう取り組んでいきます。（⇒6を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「都市部普通校」は8学級を理想としているが、少子化が進行する中で8学級は無理ではないか。8学級をつくるということは、他の高校を再編統合することか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「基本構想（案）」では、すべての「都市部存立普通校」が8学級を目指すような誤解を生む可能性がありました。6学級以上が望ましく、8学級規模の学校の設置も目指すとの意味であり、記載を変更します。（⇒8を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「都市部普通校」でも「中山間地校」でも進学できる状況が必要。</li> <li>・ 「都市部普通校」「中山間地校」で学ぶ内容や役割が違っていると読み取れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程は学習指導要領に基づき定められており、共通の学びは保障されていると考えています。その上で、立地の特性を活かす学びが効果的だと考えています。その結果、いずれの学校においても進学を充実することは可能だと考えています。（⇒7を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「探究的な学び」の実施には、1クラス40人での授業は厳しい。学級規模の検討が必要。</li> <li>・ 「中山間地校」の「探究的な学び」を保障するために、学級規模の縮小と教員の確保を実施してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでも習熟度別学習や選択講座、専門学科の実習の少人数実施等、学級とは別の少人数学習集団を形成し対応してきました。高校の教員数は、法律に標準的な人数が示されており、今後、「学びの改革」を進める上では、法律による教員配置が前提であり、国が定めた基準の中で、限られた人的配置を最大限有効に活用する視点が重要と考えます。記載の追加を検討します。（⇒5を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高校生との意見交換」では、「学びの改革」の「新たな高校づくり」についての意見は聞いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予め、参加生徒には、会の趣旨を説明するとともに、「基本構想（案）」を配布し、当日は、これを踏まえて生徒が自由に意見発表を行いました。生徒の興味・関心は学びの在り方に向いていたと考えられますが、教育環境についての意見も出されています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリックコメントや「若手教員との意見交換」等で出された反対意見や意見要望を「基本構想」に反映させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いただいたご意見を整理・検討し、「基本構想」策定の参考とさせていただきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月に「基本構想」を示すのは拙速。生徒、教員、保護者、地域の意見を聞いていない。「基本構想」を作成する前に保護者や地域等から意見を聞くべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な委員から構成した「産業教育審議会」や「高等学校将来像検討委員会」での議論を踏まえ「基本構想（案）」を作成しました。その後、県議会・パブリックコメント・高校生や若手教員等との意見交換から様々なご意見をいただきました。今後はより具体的な方向について、地域での懇談を進めていくべきと考えています。（⇒9を参照してください）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初任者研修等の研修の中で、社会との接点を重視した研修を取り入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会との接点は大切だと考えています。今後、その様な点も考慮しながら研修の充実を図っていきたくと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT（電子黒板やパワーポイント等）を効率的に活用した授業改善が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTの環境整備を進めるとともに、効果的な活用方法についても研究していきます。また、引き続き教員の指導力向上にも努めていきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前半の「新たな教育の推進」と後半の「新たな高校づくり」が一緒に書かれているが不整合ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びと学びを支える環境は一体として考えるべきであり、そのような趣旨で記載を考えていきます。</li> </ul>